

市民文芸

歌壇

岩崎 聰之介 選

打ち水とあぐさ座布団のある暮らしに守りて猛暑乗り切らむ 佐藤 啓子
籠の中のインコ声優となりけさもまた夫を笑わすその笑い声にて 寺崎 悦子
健康の幸せ深くかみしめて三輪自転車胸張って踏む 阿部みさ子
一本の初成りきうりに味噌つけて亡父と食しは遠き思ひ出 山田 濱
雲海を眼下に見つつ志賀の山夢見ごちに登りて来たり 高子うこん
毎朝の米のとき汗山百合のひ弱な苗に声かけ 川村 静恵
ケータイをパチンと閉じるその仕草あの頃に 四電 英夫
見たジッポに似てる 大庭 光穂
止みしかと思えば又も降りしきる長つゆけむる西山の峰 佐藤 すみ
どこまでも歌い続ける鳥のソロテレビを消してさえずりを聞く 鈴木 茂子
幾度も雪に埋もれし藤のつる青芽咲きいづ棚つらぬ間に 平間 久子

【評】一首目、日本的な清涼感を大切にしている作者。気持ちの張った歌だ。
二首目、怒ったりする声もまねるのだと言
う。二句目の把握がいい。
三首目、「胸張って踏む」は天への謝意、お見せしたい「こころ」故であろうか。自在に操るお姿が見えてくる。

俳壇

遠藤 秋尾 選

布やうに浜屋顔に潮のぼる 跡部祐三郎
西瓜割り力一ばい床叩く 高子うこん
炎天に賑わつてある海の家 岩松 隆志
藻の花や真珠のこく揺れ寄せる 服部 忠孝
闇の間の幽けき声よ不如帰 寺崎 悦子

風間市長の風のこころがやき

「自然」

誰しもが持つ郷土の風景。山紫水明の自然に恵まれた故郷。自然の豊かさでは、どこにも引けを取らない東北の地。山の美しさ、川の清らかさ、田園の豊かさ。わが白石市もそんな土地の一つです。春には木々や草花が色とりどりの花を咲かせ、夏にはまぶしい新緑の輝きを見せ、秋には果実が豊かに実り、冬には一面の銀世界を演出するなど、自然は四季折々の表情を私たちに見せ楽しませてくれます。大都会では味わうことのできない、究極の贅沢と言えぬでしょう。でも、私たちにとっては当たり前前の景色が故に、目の前にある自然の宝を見逃していたり、粗末にしていたりすることがあるかもしれせんね。

この「自然」というものは、穏やかなときはわれわれに恵みや安らぎを与えてくれますが、一度牙をむくと恐怖や生命をも奪う大きな災害をもたらす、大地をも動かす大きな力があることを、まざまざと見せつけられます。7月末に起こった中国地方・九州北部の記録的な豪雨では土石流が起り、施設や民家などを飲み込む甚大な被害をもたらす、さらに群馬県では竜巻

のよう素晴らしい光景ですよね。間もなくすると、この日本の牧歌的な原風景を味わうことができますね。とても楽しみです。これは自然が持つ穏やかな一面でしょう。人類は今も昔も、自然と時には闘いながらその懐の中で共生してきました。互いの均衡を保っている間は良いのですが、バランスが崩れたときにどのような事態を招くでしょうか。文明の進歩も確かに大切ですが、

被害が発生しました。身近なところでは、1年前の岩手・宮城内陸地震、市内では2年前の台風の影響による地滑り被害などがあります。これらは自然が持つ荒々しい一面です。本当に恐ろしいものです。マルコ・ポーロは東方見聞録の中で日本を「黄金の国ジパング」とヨーロッパで紹介しました。本物の金ではありませんが、秋の稲穂が実った田園風景は、まるで黄金が敷き詰められたか目の前にある自然の尊さや必要性を、早急に再認識することを迫られている時期なのではないでしょうか？一人ひとりが今何ができるか、何をしなければならぬのかを考え行動し、われわれの宝であるこの豊かな「自然」を子々孫々の代まで伝え守り続けていきたいと思います。それをしなければならぬのが、われわれ人類です。

【8月号の答え】

一般的には、あまり利用せず捨てていた内蔵部分を、料理として使えるように工夫したため、「放る物」↓ほおるもん↓ホルモン」になったと言われています。しかし、これは俗説です。実は大阪の洋食レストランのオーナーが、内蔵を使ったグータンや煮込み料理をメニューに加えたところ爆発的な人気を博したため、1940年に商標登録したそうです。内臓料理を食べると力がわいてくることから、体内で生成されるホルモンの名をとってホルモン料理としたそうです。

柳壇

四電 英夫 選

行き過ぎてうだるやうなる梅雨晴れ間 岩澤 伍峯
かたみ分け仕立て直しの白緋 斎藤 典子
上流にわさび沢あり水清ら 川村 静恵
ひとつぶの雨に紫陽花凜となる 佐藤 啓子
紫陽花の色に誘はれ今日もまた 福原 峯子

【評】一句目、浜辺に咲く昼顔に、返る波が白い布のように寄せてくる景を一句に。「布のよう」が成功した。
二句目、目隠しをしておのスイカ割りである。見当が外れて思い切り砂浜の大地をたたく笑い声まで聞こえてくる。
三句目、炎天が季節である。冷夏にもならず連日の炎天に、休日ともなれば家族連れでにぎやかなる海水浴場の様子が見えてくる。俳句は難しい言葉はいらない。

【評】一句目、ますます進む高齢化。「老々介護」が社会的問題にもなっている。家事と介護をしてくれるロボットが現れるだろうか。
二句目、この句の心境で「地デジテレビ」の買い替えを待っている人もいるのでは？でも、品不足で値上げ！なんてことのないようにね。

三句目、夏に着ようと買った甚平に袖を通すことなく旅立ってしまったご主人。付いたままのラベルが悲しさを誘う。ご主人の分まで長生きを。合掌。



国際コーナー

International Corner

ホタル・ハンティング

最近のマイブームは「ホタル」です。2年間白石に住んでいますが、今まで2、3匹しか見たことがありません。ホタルは、サクラやモミジと同じように決まった短い時期しか姿を現さない友達に聞き、これまで2度ホタルを探しに行きました。でも、天気が悪く見ることができませんでした。天気の良い蒸し暑い日でないあまり飛んでいないようなので、なかなか梅雨のシーズンに入ると難しいですね。

ところで、皆さんはオーストラリアにホタルはいると思いますか？ インターネットで検索してみると、日本と同じホタルは存在するようです。でも、私の家の近くではホタルを見ることはできませんでした。せっかくホタルの住む白石に来たのですから、見られるならいっぱい見たいですね。

実は、オーストラリアで一度光る虫を見たことがあります。それは「土ボタル」という虫で、オーストラリアとニュージーランドの一部にしか生息していないと言われています。日本で見ると川沿いを飛んでいる虫と違って、洞くつの中の暗闇に生息していて、洞くつの中

が満天の星空になったようにきれいな光を放ちます。でも、土ボタルはとてもデリケートです。私は団体ツアーで行ったのですが、添乗員に洞くつの中でランプを使ってはいけなく注意されました。なぜかという、土ボタルは体を守るシェル(殻)がないので、光が土ボタルの体を焼いてしまうそうです。写真ももちろん禁止です。写真を撮ったら、カメラのフラッシュで土ボタルはみんな死んでしまうからです。その代わり、写真をツアー会社から購入することができます。私も購入しましたが実物はもっときれいですよ。皆さんもオーストラリアに行く機会があったら、ぜひ見に行ってみてください。

●結果報告

この記事を書いてから何週間か過ぎましたので、私のホタル・ハンティングの結果を報告します。8月5日現在、結局2匹見ただけで今年のホタルシーズンが過ぎてしまいました。1匹は薬師の湯の近くを飛んでいて、もう1匹はその近くの田んぼの草にくっついていました。こんなもんですか。皆さんはいくつ見つけたのでしょうか。来年は10匹を目指します！頑張りますよ！

まちの話題

～あの日、あの時～

お兄ちゃんたちはおもちゃのお医者さん!? 「おもちゃの病院」を開院しました

8月9日、いきいきプラザに今年も「おもちゃの病院」が開院しました。この催しは、子どもたちが高校生との異年齢交流を通して、専門高校生の持つ技術に触れるとともに、物を大切にすることをはぐくんではほしいという願いを込めて、平成11年から開催しています。

今年も白石工業高等学校(佐々木太校長)の機械部の生徒20人と先生の皆さんがお医者さんとなり、子どもたちが持参した壊れて動かなくなってしまうおもちゃを「診察」して、さまざまな「病氣」を「治療」してくれました。

会場には、ミニカーやキーボードなど、電池やゼンマイで動くおもちゃ26点が持ち込まれ、手際よく分解しては配線回路などをチェックしていました。

「治療中」は心配そうに見つめていた子どもたちも、「元氣」になったおもちゃを受け取ると、とてもうれしそうな表情を見せていました。



▲壊れたおもちゃを直す白石工業高校の生徒たち